

麻酔と緩和医療

(Anesthesia and Palliative Medicine)

【責任者/担当者】

〔麻酔科学・疼痛制御科学〕 廣瀬 宗孝 主任教授

【担当者】

〔麻酔科学・疼痛制御科学〕 狩谷 伸享 教授、植木 隆介 准教授、下出 典子 講師、
奥谷 博愛 講師、宮脇 弘樹 助教

〔集中治療医学〕 竹田 健太 准教授

〔手術センター〕 多田 羅 恒雄 教授

【目的】

学生が、臨床実習で学ぶ手術を必要とする患者、集中治療室での治療が必要な重症患者、また終末期患者における病態、治療、ケアを理解することを目的に、臓器別疾患講義で学んだ臨床医学の知識と基礎医学を結び付けて、全身状態を評価できる力を身につける。

【科目キーワード】

「麻酔(Anesthesia)」 「集中治療(Intensive care)」 「緩和医療(Palliative medicine)」

【到達目標(アウトカム)】

- ☐ 麻酔の概念、種類と麻酔時の生体反応を説明できる。
- ☐ 麻酔・集中治療、蘇生に関連する薬剤の作用を説明できる。
- ☐ 気道確保の方法、酸素療法、周術期の呼吸管理を列挙できる。
- ☐ ショックの種類と治療方法を関連付けできる。
- ☐ 麻酔で使用するモニターを列挙できる。
- ☐ 周術期の輸液・輸血管理を説明できる。
- ☐ 集中治療室の役割と使用される医用機器の原理を説明できる。
- ☐ 緩和医療における全人ケア(total human care)の概念を説明できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・安心・安全な医療に強い使命感と自律性を有し、優れた協調精神を持ってチーム医療の一員として社会の福祉に奉仕できる良医となるべき素養を有している。
- ・医療を取り巻く社会経済的動向を把握し、地域医療の向上に貢献するとともに、地域の保健・医療・福祉・介護および行政等と連携協力できる。
- ・人文社会科学を含む幅広い教養と国際性を身につけ、海外からの情報を積極的に利用できる語学力を有し、国際保健に貢献できる。

- ・人体や疾病に影響を与える社会的な要因や背景について理解し、支援扶助の社会的仕組みについて理解している。
- ・豊かな人間性と生命の尊厳についての深い認識を有し、人の命と健康を守り、社会の福祉に奉仕する医師としての職責を自覚し、地域並びに母校への帰属意識を有している。
- ・患者およびその家族の人権を守り、医師の義務や医療倫理を遵守するとともに、患者の安全を最優先し、患者の権利と生命の尊厳を守ることができる。
- ・人間の多様性を理解し、周囲の人々への温かい眼差しを持ち、共感できる豊かなコミュニケーション能力を有している。
- ・患者の痛み、苦しみ、悩みと機能障害を含め様々なハンディキャップを理解し、常に患者中心の立場に立つことができる。
- ・医学・医療の進歩と改善に資するために研究を遂行する意欲と生涯にわたり自己研鑽を続ける態度を有し、同僚・後輩への教育に労を惜しまない。
- ・患者の持つ様々な問題点を科学的かつ統合的に捉え、的確に判断し解決できる応用力と問題解決能力を有している。
- ・基本的な診察法、医療技術、救命救急法を修得しており、全身を総合的に診療するための実践的能力、ならびに医療安全と危機管理の能力を有している。
- ・人体の構造、機能および異常や疾病とそれらの原因、病態、診断、治療に関する基本的な知識ならびに様々な疾病に対する適切な治療法を身につけている。

【概要ならびに履修方法】

特になし

【準備学修ならびにそれに要する時間】

前日までに該当する部分の講義冊子に1時間程度目を通すこと。

【成績の評価方法・基準】

各講義内容に沿った筆記試験に、出席点数を加味して評価する。

【学生への助言】

特になし

【フィードバック方針】

希望する学生毎の個別に答案を開示する。

【オフィスアワー】

特になし

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

「標準麻酔科学(第7版)」古家 仁 監修(医学書院)2018 年

「周術期管理チームテキスト(第4版)」日本麻酔科学会・周術期管理チーム委員会 編
(日本麻酔科学会)2020 年

「ICU ブック(第4版)」Paul Marino 著(メディカル・サイエンス・インターナショナル)2015 年

【参考書】

特になし

【連絡先】

1 号館 5 階 麻酔科学・疼痛制御科学講座医局